

福島浪江町における農業“新興”に向けた取り組み ～担い手育成に向けて～

●取り組みの概要；

浪江町の農業復興のボトルネックとなっている“ソフト面”を支援するため、東京農業大学の“復興知”を結集し、①就農拡大への取組み、②6次産業化推進の取組み、③スマート農業推進の取組みを展開し、“復興”から一歩進んだ農業の“新興”を目指す。本年度は学生による現地での活動を本格化させたい。

浪江町における営農再開および担い手育成に
向けたコンソーシアム形成



2018年3月21日

株舞台ファーム×福島県浪江町
「農業に関する包括連携協定」締結

2016年4月22日

株舞台ファーム×東京農業大学生物産業学部
「農業に関する包括連携協定」締結



2019年1月31日

東京農業大学×福島県浪江町
「農業に関する包括連携協定」締結

2019年度の活動内容

① 就農拡大への取組み

- ・学生による農業体験実習（6月～）
- ・浪江町の担い手育成に関するヒアリング調査（8-9月）
- ・社会人（株マイファーム）の新規就農支援活動（9月）
- ・株舞台ファームによる営農体験（10月）
- ・浪江町の農業復興計画への提言等（12月、1月）
（シンポジウムの開催；浪江町・東京都内）

② 6次産業化推進への取組み

- ・新規作物等（パピーノ、小麦）の提案・営農指導（5月～）
- ・地元産品の6次化支援プログラム（5月～）
（コマ、トルギキョウの商品化、パピーノ加工試作）
- ・景観作物（桜、ジャランダ）の検討・検証（5月～）
- ・6次産業化支援テキストの作成（12月）
- ・農業セミナーの開催（12月）

③ スマート農業推進の取組み

- ・ドローンによるスマート農業支援
（株舞台ファームによる圃場面積の拡大）



↑パピーノの定植作業

パピーノの加工品試作→



取り組みによって目指す成果

- ・学生による現地活動の実施（信頼関係の構築）
- ・新規就農ビジネスモデルの構築
- ・帰還農業者・新規就農者の増加、新作物・新商品開発による6次産業化・スマート農業の推進